通常の学級担任と特別支援教育支援員との情報共有の在り方について

－　情報共有のための支援シートの活用　－

学籍番号	209213
氏　　名	平岡　彰代
主指導教員	梅川　康治
副指導教員	平井　美幸

１．特別支援教育支援員の現状と課題

1.1 特別支援教育支援員の現状

2007年度から配置された特別支援教育支援員（以下支援員とする）は、2022年度では小学校だけで、2007年度当初の倍の配置予算が組まれている。これは、個別の支援の必要性の増加に伴い、支援員を望む学校現場の現状であることが示されていると考える。

1.2 特別支援教育支援員と教員の連携の課題

支援員と教員の間で情報共有の必要性はあるが、多忙な教員と支援員の連携については、限られた時間を有効に使う工夫の必要であると考えられる。

２．A小学校の現状について

2.1 A小学校の現状

A小学校は、全児童数が約30名弱の小規模校である。校務分掌や行事等での常勤教員の負担は大きい。特別支援学級は開設されていないが、2名の支援員が配置されている。

2.2 A小学校における筆者の立場

筆者の立場は教頭である。202Ｘ－1年度は支援員との情報共有は、その場対応であることが見られた。そこで情報共有のための資料（以下支援シートとする）を作成し、支援シートが情報共有に対し、機能しているかなどを模索・検討した。

３．実践課題研究の取り組み

3.1 実践課題研究の背景

A 小学校の 2 名の支援員が児童に適切で効果のある支援を行っても、学級担任に伝わっていないことも多く、情報共有があやふやな状態であることが見えてきていた。また支援の内容も支援員同士の情報共有ができていないことも明らかになってきた。この課題解決のために、支援シートの作成を試みた。

3.2 実践課題研究の目的

本実践課題研究の目的は、通常の学級担任と支援員との情報共有の在り方について、実践を進めながら、検討することである。

４．支援シートの実践

4.1 実践の開始

202X－１年10月より支援シートの実践を開始した。当初、支援員の書き込みの内容は児童の状態像や児童への注意などが多く見られた。

4.2 支援シートの書き方を支援

202Ｘ年4月、支援シートに記入する内容を統一するため、支援のチェックリストを添付した。全教職員に対して支援シートの役割と活用を周知した。また、特別支援教育コーディネーターに対して支援シートについて詳細な説明を行った。

4.3 支援シートの修正

学級担任・支援員・特別支援コーディネーターに対して、支援シートを使用したことについてのインタビューをした。内容を整理・検討し、支援シートの修正をし、支援体制の環境面を整えた。その結果、支援員が支援シートに書く内容にかなり変化が見られた。

５．実践の結果

支援シートから、児童の困っていることが学級担任に伝わることで、学級担任は声掛けを児童にするなど、具体的な指導を深めることができていた。記入内容をお互い読むことで、支援の仕方の共有と学びになっていた。学級担任からの感想の記入は、必要とされていることが嬉しいという支援員の意欲向上に繋がっていた。

インタビュー後、支援シートを週の終わりに回覧するように変更したところ、学級担任が支援シートを読んでいる姿をよく見かけるようになった。支援員の学級に入る予定を記入した時間割も、確認できるよう時間割表ボードを作成し、可視化を図った。すると、支援員も、自身と他の支援員の動きがわかりやすくなったという声を聞くことができた。

６．考察

支援シートの活用は、学級担任と支援員との情報共有に一定の効果をもたらしていることがインタビューを整理・検討することで見ることができた。その役割が大きいことが推察される。

課題も見えてきた。１つ目は、学級担任の授業スキルの課題である。授業を行うなかで児童を見る余裕がなければ、いくら支援員が支援シートに児童のことを書いていても、活用が難しいこと。２つ目はコミュニケーションスキルの課題である。学級担任が他者とコミュニケーションを取ることが苦手な場合、自ら支援員へ聞きに行くことは難しく、シートのみでの情報となる。そこで、両者の情報共有を補う役割を果たすのが特別支援教育コーディネーターと改めて再認識させられた。今後は、協働できる体制づくりについて探求していきたい。